

学校だより

横浜市情報ネットワーク（ＹＹネット）上に本校のホームページがあります。

URL : <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

横浜市立十日市場小学校
令和5年3月24日（金）
緑区十日市場町 1392 番地-1

電話 : 981-0420

FAX : 983-1694

「高い塔を建ててみなければ、新たな水平線は見えてこない」

校長 平田 あや

学校の周りの桜が満開になった3月17日、6年生が卒業式を終え立派に巣立っていきました。今年度は、4年ぶりに、卒業式当日の朝、校庭に全校児童が集まり「お別れ式」を行うことができました。卒業生の凛々しい表情や姿を見て、下級生は「素敵だな。」という視線を送っていました。制限のある生活の中でも、いつも前を向き今できることに精一杯取り組んできた6年生。厳かな雰囲気の中で、一人ひとりが卒業証書をしっかりと受け取りました。自覚や決意を胸に秘めた子どもたちの瞳の輝きや表情の美しさは、感動すら覚えるものでした。式辞では「志高く歩んでほしい」という願いを込めて、次のようなメッセージを贈りました。

卒業式式辞（抜粋）

浅い春のやわらかな風に、桜の花びらが、心地よさそうに揺れています。このような穏やかな日に、門出の時を迎えた94名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの今年度の学年目標は、「協同彩光」—「みんなで協力して美しい光を創り出し、最高の学年・最高の学校を創り上げる」。皆さんは、いつもこの言葉を胸に、最高学年として努力を重ねてきました。「登校班で優しくしてくれてありがとう。」「運動会のソーラン節がかっこよかった。」下級生からのメッセージには、皆さんへの感謝の思い、憧れの気持ちが、たくさん綴られていました。

さて、皆さんが生まれたのは、今から12年前。その2010年6月13日午後11時21分、西の空に、突如光の点が現れ、漆黒の夜空を満月のような明るさで照らしました。その光は一直線に飛んでいき、最後は天の川の先に消えました。皆さんは、この12年前のできごとを知っていますか。これは、小惑星探査機「はやぶさ」という小さな宇宙船が、往復60億kmにも及ぶ長い旅を終え、地球に戻ってきた瞬間でした。はやぶさは、「地球誕生の謎を解き明かす」というミッションのために打ち上げられました。しかし、打ち上げ直後から困難の連続でした。エンジンの故障、通信が途絶えてしまう、燃料漏れ…。それでも7年後、はやぶさは見事、小惑星の表面から貴重な物質を地球に持ち帰ったのです。世界で、誰も成し遂げたことのない挑戦であり、成功でした。

「高い塔を建ててみなければ、新たな水平線は見えてこない」

これは、はやぶさのチームリーダー 川口淳一郎さんの言葉です。「同じ目線のままでは、見える景色が変わったり広がったりすることは絶対はない。しかし一歩でも高いところから見れば、新たな水平線—つまり新しい世界や新しい自分が見えてくる」と語っているのです。「高い塔を建てる」というのは、志や夢、目標をもつということです。自分は、将来どんな人間になりたいのか。常に自分自身に問いかけ、新しい自分を目指して、努力をしてください。その道のりには、困難なこともたくさんあるでしょう。でも、あなた方の周りには、励まし応援してくれる仲間やご家族、先生方がいるはずです。夢や目標に向かって、一歩また一歩、自分の足で歩き続ける。そんな強さを持った素敵な人になってください。（以下 省略）

在校生も、2週間後には新しい学年に進級します。良いスタートを切れるような時間を過ごしてほしいと思います。

最後になりましたが、本校の教育活動を支えていただいた保護者や地域の皆様、本当にありがとうございました。来年度も、職員一同、保護者・地域の皆様と手を携えて、のびのびと学び合える、笑顔いっぱいの十日市場小学校を創っていきます。どうぞよろしく願いいたします。